

ハウス栽培なばなのコナガ防除における性フェロモン剤の使用回数削減

コナガの発生は、ハウス内への侵入防止対策等を講じることで、生育初期時にはほとんどみられなくなる。性フェロモン剤の効果は、少なくとも130日程度持続する一方、薬剤成分は140日でなくなる場合もあることから、なばなの収穫終期からおよそ4か月前の1回処理でよいと判断された。

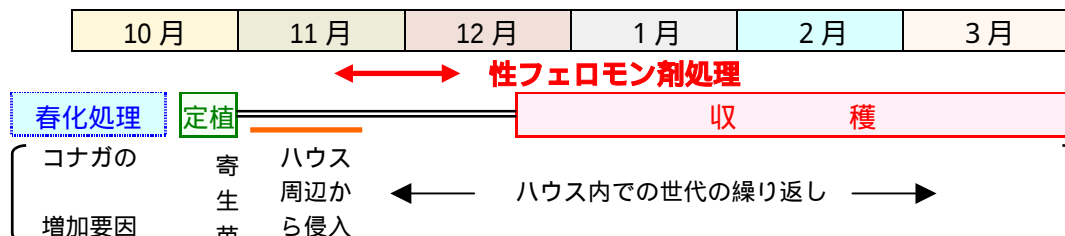


表1 性フェロモン剤の使用回数とコナガ防除効果（平成10年、水沢）

調査 月日	無処理区			1回処理区*1				2回処理区*2			
	幼虫	成虫	食害株	経過日数	幼虫	成虫	食害株	経過日数	幼虫	成虫	食害株
10/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11/ 6	0	0	0	8	0	0	0	8	0	0	0
11/20	0	0	0	22	0	0	0	22	0	0	0
12/ 3	0	0	0	35	0	0	0	35	0	0	0
12/14	0	0	0	46	0	0	0	57	0	0	0
12/25	0	0	0	57	0	0	0	68	0	0	0
1/ 5	0	0	0	68	1	0	0	85	0	0	0
1/22	1	1	14	85	0	0	0	99	0	0	1
2/ 5	0	0	8	99	0	0	0	0	0	0	0
2/18	0	0	4	112	0	0	0	13	0	1	0
3/ 8	1	1	5	130	0	0	0	31	0	0	0

供試品種：はるの輝、定植：10/27～30、調査株数：100株

*1 10/29：性フェロモン剤 200m / 10a *2 10/29：同剤 400m / 10a、2/ 5：同剤 100m / 10a

コナガ少発生条件下での試験であったが、1回処理区でも2回処理区と同様に、調査した130日後まで無処理に比べ幼虫の発生及び食害はほとんど無かった。



写真 なばな「はるの輝」

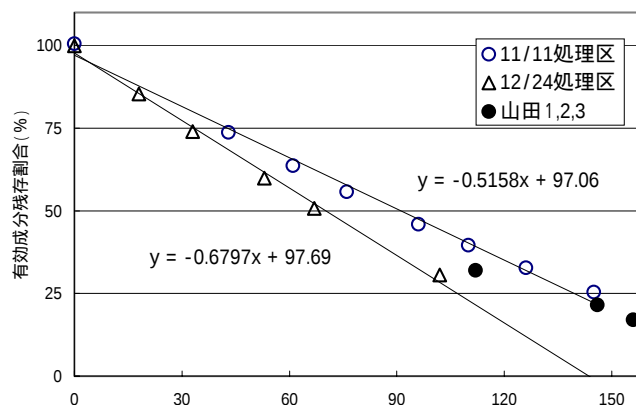


図1 性フェロモン剤処理後の経過日数と成分量

11/11 処理区（定植時処理）では、126日後の時点で資材の有効成分が薬30%残存していた。

一方、12/24 処理区では、薬40日で成分はほとんど0になる。